

教科書の調査研究報告書

安芸高田市・山県教科用図書採択地区合同調査委員会

校種	教科	教科用図書目録に搭載された教科書総数	本報告書の総ページ数
中学校	音楽（器楽合奏）	2	2

調査研究の観点及び各教科書の特徴

発行者 観点	17 教出	27 教芸
基礎・基本の 定着	<p>1 題材や学習目標等の示し方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目次ページに、「演奏の仕方を身につけよう」「合わせて演奏しよう」と示している。 ・リコーダーのページでは、見開きごとに「学びのねらい」を示し、教材曲ごとに、「学びのポイント」を示している。 <p>2 器楽の基礎・基本の定着を図るための工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各楽器の各部の名称、姿勢とかまえ方、奏法等を写真や図で順序立てたり、手を大きく写したりして示している。 	<p>1 題材や学習目標等の示し方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目次に続く学習内容のページに、三つの資質・能力と、それに対応する学習内容や教材を図示している。 ・リコーダーの「アンサンブルセミナー」のページでは、見開きごとに「学習目標」を示し、教材曲ごとに、「活動文」を示している。 <p>2 器楽の基礎・基本の定着を図るための工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各楽器の各部の名称、姿勢とかまえ方、奏法等を写真や図で示している。
主体的に 学習に 取り組む 工夫	<p>1 興味・関心を高めるための工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「打楽器」、「リコーダーの運指表」、「ギター&キーボードコード表」、「いろいろな用語、記号」を掲載している。 <p>2 和楽器の学習の扱いとその活用を図る学習活動の工夫（箏）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・演奏者を正面から見た角度と上から見た角度の写真を掲載している。親指による基本的な奏法について説明している。 ・「音のスケッチ」として、平調子の響きを生かして「荒城の月」の前奏を創作する活動を設定している。 	<p>1 興味・関心を高めるための工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「日本音楽の楽器編成」、「バンドの世界をのぞいてみよう」、「リコーダーの運指表」、「ギター/キーボードコード表」、「楽器の図鑑」、「音楽の約束」、「楽しもう！和楽器の音楽」を掲載している。 <p>2 和楽器の学習の扱いとその活用を図る学習活動の工夫（箏）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・演奏者を正面から見た角度と上から見た角度の写真を掲載している。親指、中指、人さし指による基本的な奏法について説明している。 ・「My Melody」として、都節音階と律音階のどちらかを選んで旋律をつくる活動を設定している。
内容の構成・ 配列・分量	<p>1 教材の分量及び構成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クラシック音楽、日本歌曲、日本古来の歌、わらべうた、日本の民謡、世界の民謡、映画・ポピュラー音楽、その他・オリジナル曲を練習曲、アンサンブル曲として掲載している。 	<p>1 教材の分量及び構成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クラシック音楽、日本歌曲、日本古来の歌、わらべうた、世界の民謡、映画・ポピュラー音楽、その他・オリジナル曲を練習曲、アンサンブル曲として掲載している。

発行者 観点	17 教出	27 教芸
	<ul style="list-style-type: none"> ・楽器は、アルトリコーダー・ギター・箏・三味線・篠笛・太鼓・尺八・打楽器（5種類）を取り上げている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・楽器は、アルトリコーダー・ギター・箏・三味線・篠笛・太鼓・尺八・打楽器（15種類）を取り上げている。
内容の 表現・表記	<p>1 [共通事項] の指導を充実させる工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「合わせて演奏しよう」のページでは、曲名の下に「主旋律と他の旋律との関わりを意識して表現を工夫しよう。」「拍子や速度などが生み出す雰囲気味わいながら演奏しよう。」等と示している。 ・唱歌の説明とともに、尺八、箏、三味線、太鼓の唱歌の例を示している。キャラクターによるセリフで、「実際に唱歌を唱えてみましょう。」と示している。 	<p>1 [共通事項] の指導を充実させる工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「アンサンブルセミナー」のページでは、曲名の下に「アーティキュレーションを参考にしながら、曲にふさわしい表現を工夫して演奏しましょう。」と示しており、見開き左ページ下に、学習内容に即した音楽を形づくっている要素を示している。 ・『『六段の調』から“四段”』において、「唱歌を歌ったり楽器を弾いたりしながら、箏の音楽の特徴を感じ取りましょう。」と示している。「唱歌を歌ってみよう」では、歌うときのポイントを3つ示している。
言語活動の 充実	<p>1 器楽分野における言語活動の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「合わせて演奏しよう」（音のスケッチ）では、学びのポイントを「楽器の音色（おんしょく）や響きを生かし、全体の構成を工夫しながら表現しよう。」と示している。また、「グループに分かれて基本形を演奏します。速度や強弱などは、グループで話し合って確認しておきましょう。」「基本形に慣れたら、オプションパート伴奏A～伴奏Dから選んで加えて演奏してみよう。」と言語活動のポイントや演奏の際に工夫する視点を示している。 	<p>1 器楽分野における言語活動の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「曲想を感じ取って、表情豊かに演奏しよう」では活動文で「アーティキュレーションを参考にしながら、曲にふさわしい表現を工夫して演奏しましょう。」と示している。学習過程①、②が示され、「①で感じ取ったことをもとに、友達と話し合いながら曲全体のアーティキュレーションを決め、2つのパートに分かれて演奏しましょう。」と、キャラクターの吹き出しで「長くのばす音にはどんなアーティキュレーションを使えばいいかな?」「アイデアを楽譜に書いておくと演奏に役立つね。」など示している。